

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年7月27日（月）～平成27年8月2日（日）【第31週】の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は11.39人と前週（12.73人）から減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.45人と前週（4.06人）からほぼ横ばいですが、例年よりやや高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.27人と前週（5.18人）から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？腸管出血性大腸菌感染症

6月以降、川崎市内で腸管出血性大腸菌感染症（O157など）の届出数が増加しており、第31週（7月27日～8月2日）には4件の届出がありました。例年、8月下旬頃に届出数が最も多くなりますので、引き続き注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

腸管出血性大腸菌（O157、O26、O111など）を原因とする感染症です。

感染経路

- ・菌に汚染された食品や、患者の便で汚染された物に触れた手を介して起こる経口感染
- ・感染力が強く、約100個程度の少量の菌数でも感染

（通常、話をしたり、くしゃみ、汗などでは感染しません。）

潜伏期間

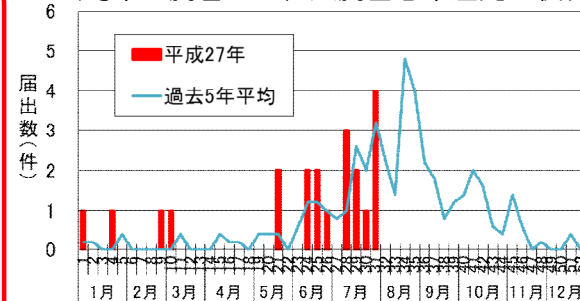
2～14日（平均3～5日間）

主な症状

- ・激しい腹痛、頻回の水様性下痢
- ・発熱は軽度で多くは37℃台
- ・血便とともに重篤な合併症を起こすこともあります。



川崎市の腸管出血性大腸菌感染症発生状況



“子どもや高齢者は要注意！”

子どもや高齢者が感染すると、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こしやすいと言われています。

激しい腹痛や著しい血便、けいれんや意識障害などがみられた際には、直ちに医療機関を受診しましょう。

